

有馬の歴史

有馬温泉は、三千年以上の昔、大己貴命(おおなむちのみこと)と少彦名命(すくなひこなのみこと)の二神が発見したと伝えられています。

二神が民の健康と長寿を願って温泉を探していたところ、この地で三羽の傷ついたカラスが水溜まりで水浴びをしていました。その数日後、カラスの傷がすっかり治ってしまったのを見て、水溜まりが温泉であることを発見したそうです。

このことから有馬温泉は日本最古の温泉といわれています。

日本書紀によると舒名(じょめい)天皇が631年に有馬温泉を訪れたことが記録に残っています。

これが有馬温泉の歴史上最初の登場とされています。

また、この舒名(じょめい)天皇の有馬温泉への行幸が、天皇の温泉への行幸の始まりとされています。

その後、奈良時代に僧行基(ぎょうき)が、温泉に医療効果を認め、温泉寺を建立し、のち鎌倉時代に僧仁西(にんさい)が、12の宿坊を開きました。

そして有馬温泉の大繁栄をもたらしたのが、豊臣秀吉でした。

秀吉は、何度も有馬を訪れついにここで千利休を伴い茶会を開くまでになりました。

有馬を訪れた著名人

大和飛鳥時代

舒名(じよめい)天皇 推古天皇の没後、即位
孝徳天皇 中大兄皇子・中臣鎌子(後の中臣鎌足)らと共に改革を行っ
柿本人麻呂 た
宮廷歌人。万葉集に登場する。有馬を詠む

平安時代

和泉式部 情熱的ではげしい恋愛。波乱に富む生涯。
揺れ動く心を読む。『和泉式部日記』は有名
藤原道長 摂政・関白になる可能性はなかったが、ひよんな事から権力を握
り政治の表舞台に登場する
後白河法皇 歌舞を愛した平安期の法皇
小野小町 平安時代の六歌仙のひとり。絶世の美女だったと語り継がれる
在原業平 歌人。この人もまた絶世の美男子と噂される
西行 旅の歌人として有名。ほとんど全国を歩いた

鎌倉時代

藤原定家 『新古今和歌集』の撰者の一人。『小倉百人一首』の撰者でもあ
る

有馬の歴史年表

時代	西暦	日本の歴史	有馬の歴史
		大和朝廷が日本の統一を進めた	有馬温泉の起源だと伝えられている“三羽鳥”の話 大己貴命の伝説はこのころ
飛鳥	604 607 631 645 647	聖徳太子が十七条憲法を作る 法隆寺完成 大化の改新	舒名天皇が有馬に入湯される 孝徳天皇が入湯される
奈良	710 751	奈良に都が移る(平城京) 奈良の東大寺大仏開眼	聖武天皇のころ、僧 行基上人が有馬を再興する 多くの人が有馬に入湯(奈良時代～平安時代)
平安	794 1024 1097 1167	京都に都が移る(平安京) 藤原道長が全盛期をふるう 平氏(平清盛)栄える	藤原道長が有馬に入湯 大洪水、山津波で有馬温泉は荒廃する 僧 仁西上人、有馬温泉を再興すると伝えられる
鎌倉	1192 1203 1205	源頼朝が鎌倉に幕府を開く 天皇中心の政治が始まる(建武の新政)	藤原定家が有馬に入湯 室町時代終わり頃まで約 300 年間有名な人々が有馬を訪れ賑わった
室町 安土 桃山	1338 1539 1573 1575 1585 1596	足利尊氏が室町に幕府を開く 織田信長、室町幕府を滅ぼす 豊臣秀吉、大阪城を築く	有馬城、落城する 有馬、大災害にあい荒廃する 豊臣秀吉有馬温泉を修復する 秀吉、利休と共に入浴し茶会を行う。また度々有馬を訪れる 近畿大地震により、温泉場全壊する 温泉場を修復し再興する

時代	西暦	日本の歴史	有馬の歴史
江戸	1603	徳川家康、江戸に幕府を開く	知名な人々が数多く入湯、特に文化・文政(1800~1850)の頃、有馬温泉の全盛期で大変賑わった
	1853	ペリーが浦賀に来航	
	1858	日米通商条約を締結、開国をする	
	1867	江戸幕府が滅びる	
明治	1873		梶木源次郎、炭酸水を発見する
	1874	神戸~大阪間鉄道開通する	温泉浴場二階建て洋館が落成する
	1883		
	1894	日清戦争始まる	鉄道の開通により入湯者増える
	1899		
1904	日露戦争始まる	阪鶴鉄道、大阪生瀬間開通、生瀬三田間開通	
大正	1914	欧州大戦始まる	三田有馬間に鉄道が開通する ラジュウム泉発見される
	1915		
昭和	1927		神戸電鉄(湊川~有馬間)開通する
	1931	満州事変起こる	阪神大水害 有馬も大水害に遭う
	1937	日華事変起こる	
	1938	阪神大水害	有明泉一号を掘る
	1941	太平洋戦争始まる	銀泉を掘る
	1945	終戦	有馬大茶会始まる
	1947	六三三制教育実施される	
	1948		天神泉を掘る
	1949		極楽泉・有明二号を掘る
	1950		うわなり湯を掘る
	1954		瀬戸内海国立公園に編入する
	1955		温泉会館新築落成する
	1960		芦有自動車道路開通する
	1962		神鉄、神姫バス有馬神戸間運航する 芦有バス・裏六甲ドライブウェイ開通する
	1964	東京オリンピック開催される	六甲トンネル開通する ロープウェイ完成する
1970	大阪万国博覧会実施される		
1973			

有馬の泉源

【金泉】

鉄分を大量に含んだ無色透明で湧き出た百度近い熱湯が、空気中の酸素に触れ酸化し、赤茶色になったことから「金泉」と呼ばれるようになりました。塩分は海水より濃く難病といわれる「アトピー」にも効果があります。

【泉質名】

含鉄、ナトリウム塩化物強温泉(含 Fe・Na-Cl 強温泉)

【効能】

高張性、中性高温泉、神経痛、筋肉痛、関節痛、疲労回復、健康増進、慢性消化器病、打ち身、やけど、慢性皮膚病、慢性婦人病、くじき、運動麻痺、切り傷、冷え性など

【飲用の適応性】

慢性消化器症、慢性便秘、鼻血

【飲用のご注意】

フッ素や鉛を含有するため温泉について専門知識のある医師の指示を受けること。食後飲用すること。飲用直後には茶・コーヒーなど飲まない。

有馬のお寺と寺社

祭神は稲倉魂命、奥の院には古長大神、恒長大神が祀られている。

舒名天皇、孝徳天皇が有馬温泉に行幸されたとき、杉が谷に有馬行宮が造営され、その守護神として、稲荷大神を勧請して、有馬稲荷の建立となった。

それ以後も有馬行宮の後に鎮座しており、その間災害や火事に遭って社殿や宝物、古文書、記録等もなくなってしまった。

明治37年5月9日に、的場山の中腹に移されて、現在に至っている。

そのほか増富神社、滝本神社、雪国神社などが、稲荷大神を祀っている。



▲【有馬稲荷神社】境内には、末社として粟島神社(祭神 粟島大神、大宮姫大神、白霊大神)、湯山稲荷神社(祭神 大島豊永大神)があり、四季の花木が参拝者を慰めてくれる、



▲境内から見た有馬の風景



入り口は二ヶ所ある。左写真の入り口の方が足場が良くおすすめ

有馬の名所・史跡

湯けむり広場

神戸電鉄有馬温泉駅を出て、右手に行くと、温泉を利用した珍しい公園(ゆけむり広場)がある。その横には有馬温泉を愛した太閤秀吉の像が有馬川を挟んでねね像と見つめ合っているとか、いないとか……

袂岩(たもといわ)

温泉神社の祭神、熊野久須美命が、遊びに興じている際、自分に向かって矢を射ようとした男めがけて小石を投げ応戦しました。その時の小石が大きくなり現在の袂岩になったと伝えられています。

鳩子の像

人々は、誰しも飛翔への願望を持っているといいます。天女の羽衣とも見紛う羽を持ち、今にも飛び立とうとする象徴であるこの像は、そんな人々の願いを込めた偶像です。

太閤橋

以前は「太古橋」として親しまれてきましたが、2001年春、秀吉にちなみ「太閤橋」として新たに生まれ変わりました。

有馬の歳時記

入初式

いつごろから入初式が始まったのかは判らないが、約 300 年前(江戸時代)には行っていたようである。

江戸時代に出版された『有馬小鑑』にでており、以来 1 月 2 日には、行基菩薩・仁西上人の像を御輿にのせ、本温泉で新年の初湯をかけて、先人への感謝と有馬温泉の繁栄を祈る儀式を行っている。

現在は、有馬小学校講堂で行っている。

入初式の歌

杖も栄ゆるわか緑
仰ぐにあかぬ御内ぞ
ひさしき
滝の白糸いとしうてな
らぬ
ゆるせ主あるわが片
袂
落葉山こそ名所なり
めでたしめでたし
打ちましようちましょ

有馬の一年の主な行事

- 1 月 3 日 お日待
- 1 月 5 日 消防入初式
- 1 月 15 日 ドンド正月

有馬の桜まつり

4 月上旬から親水公園や善福寺の糸桜(枝垂桜)、有馬河畔の桜がライトアップされる。親水公園付近は食べ物屋台で賑わう